

保育界

2014

1



発行 日本保育協会

本当の体験ができる園づくり —クニルプセンランド幼稚園・保育所（ドイツ）—

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

子どもの思いやる心、命やものを大切する心を育むためには、自然の恵みを生かした保育環境づくりが大切になります。ここでは、そうした環境づくりを積極的にすすめる海外の事例をご紹介します。



『絵本や映像の世界ではなく、本当の体験ができる環境を与える』
『体験を通じて、様々なことへの気付きを促し、楽しいと思う心を育てる』

これが、この園の保育のコンセプトです。このコンセプトを実現するために、更地だった園庭に、地域の自然をお手本として樹林タイプのビオトープ（地域の野生生物がくらす空間）をつくりました（写真左）。

出来上がった園庭で、園児は、セミのぬけ殻や小鳥のさえずり、土の匂い、ザラザラした木の感触など、身体全体でいろいろなことに気付き、目が輝きます（写真右）。

こうしたコンセプトや取り組みが認められて、この園は、2008年のザクセン州主催の園庭コンクールでベスト30に入りました。このコンセプトが地域にも受け入れられて、入園希望者が絶えないとのこと。

■『全国学校・園庭ビオトープコンクール2013発表会』のご案内

学校・園庭ビオトープは、子どもたちにとって最も身近な自然体験の場です。今回もビオトープを設けて自然との触れ合いを進める、素晴らしい事例がたくさん集まりました。この発表会を通して、これからの活動のヒントを見つけていただければ幸いです。みなさまのご参加をお待ちしています。

日時：2014年2月9日（日）13:00～

会場：津田ホール（東京都渋谷区）※JR千駄ヶ谷駅より徒歩1分

参加費：無料（事前申込制／TEL 03-5951-0244）



【主催】（公財）日本生態系協会 【後援】厚生労働省、（社福）日本保育協会 ほか